

言葉を超える音楽のチカラ

# 初者の響

はつねのひびき

マリンバ・打楽器奏者 宮本 妥子さん×津軽三味線奏者 多田 智大さん



会場 市民ホール 大ホール

明けましておめでとうございます。  
2026(令和8)年の幕開け、  
この一年にかなえたい夢はありますか。  
音楽の世界で活躍する、  
市内在住の洋楽器と和楽器の演奏家お一人による  
スペシャルな対談が実現しました。

## 音楽との出会い

**宮本** 私は静岡県で生まれました。父親はオペラが大好きで、母親は木琴が大好き。気づいたら家に大きなマリンバが置かれていて、姉と私もマリンバをやるようになりました。音楽が身近にあって、自然と出会った感じです。

**多田** 祖母が趣味で三味線(民謡)をやっていたので、発表会についていつたりする中で三味線に出会いました。それが小学一年生の時で、もともと田立ちたがりで舞台に立つてみたいと思つていました。

## 演奏している楽器の魅力

**宮本** 机でもなんでもたたけば音が鳴りますから、打楽器は原始的な楽器です。その原始的な楽器で、どれだけきれいな音を出せるかを追求するのが魅力といえます。マリンバも、もともとはアフリカ生まれで木をたたいて演奏していました。西洋音楽の楽器としての歴史は、まだ100年くらいしかありません。

**多田** 津軽三味線の歴史も150年くらいです。もともとは田の見えない人が門付け\*で、生きるためにお金やお金をもらうための楽器だったそうです。津軽三味線の魅力である気迫のある演奏は、先人の生命の色といつてもいいかもしれません。津軽三味線のような和楽器は、決まった音階はあるけれど、曲や音の使い方が整いきつていらないのが特徴であり魅力です。

## 演奏活動の近況

**多田** 演奏家として舞台ではプロのつもりですが、高校生でもあって、大学進学を目指しています。津軽三味線の演奏で、音楽の基礎を学ぶ機会はこれまでありませんでした。和太鼓とかピアノとか、いろいろなジャンルの人とのコラボレーションで勉強しながら力をつけてはいるところです。

**宮本 妥子さん**  
マリンバ・打楽器 演奏家  
ドイツ・フライブルク音楽大学を首席最優秀で修了。ドイツ国家演奏家資格首席取得。数々の国際コンクールで入賞・優勝。滋賀県文化奨励賞、平和堂財団芸術奨励賞を受賞。帰国後、(一財)地域創造の公共ホール音楽活性化事業協力アーティストとして、全国各地でアウトリーチ活動を実施。現在は滋賀県立石山高等学校 音楽科、相愛大学音楽学部・同大学院 非常勤講師、同志社女子大学 嘱託講師。



※門付け…門口や玄関先で披露して会員を受け取る形式の芸の総称



**宮本** 私はマリンバを始めて半世紀がたちます。最近はアウトリーチ活動に力を入れていて、これまで300公演くらいやりました。子どもたちのいる教室に大きな楽器を置いて、みんなの息遣いが聞こえるくらいの距離感で音楽を聴いてもらう活動です。好きなもの、興味のあることに出会って思い切り続けてみたら、将来それが職業になるかもしれない、人生の糧になると。それを伝えたいと思っています。

## 演奏家の苦労と音楽のチカラ

**多田** 実は世界チャンピオンといわれるのが嫌です。トロフィーに歴代優勝者のペナントがついている、尊

敬する演奏家の名前が並んでいるのを見ると「この人たちの肩書に泥を塗つたらあかん」と、もうぐるぐる緊張します。

**多田** それって素晴らしいことだと思う。努力して優勝しても「泥を塗つたらいけない」という心意気や志があるのですよね。

**宮本** 本場・青森では関西弁の歌なんて、という目を向けられることがあります。普段の演奏会でも「高校生で大丈夫?」という想線も。そのぶん、100%の責任を負うのですよね。

**多田** 本場・青森では関西弁の歌なんて、という目を向けられることがあります。普段の演奏会でも「高校生で大丈夫?」という想線も。そのぶん、100%の責任を負うのですよね。

**多田 智大さん**  
津軽三味線 演奏家  
滋賀県立守山高等学校  
3年生

令和6年に、第12回 津軽三味線津軽民謡全国大会～日本の真ん中フェスティバルinびわ湖～日本一部門・唄付抽選曲部門 ダブル優勝。令和7年に、プロへの登竜門といわれる第43回 津軽三味線世界大会 個人A級チャンピオンなど、数々の大会で入賞・優勝。現在は演奏活動をしながら、芸術大学進学を目指して勉強中。



**多田** チャンピオンになってからも他の場所での演奏会が多くなったから、2026年の抱負は地元・守山での演奏会です。大学に進学しても滋賀を中心に演奏活動を続けるし、卒業したら必ず守山に戻ってきて、家を建てて、定住します。それはもう僕のこだわりです。将来は、いつか三味線人口が増えて滋賀で盛り上がりたいね」と思われるくらいにしたい。それから、「この大ホールみたいな大きなホールで演奏できるエンターテイナーになりたい。

**宮本** マリンバや打楽器のソロリサイタルのほかに、違う洋楽器や和楽器のような音楽家と一緒に演奏することが多いですが、舞踊とか狂言とか、違う芸術との出会いはすごく大切なことです。多田さんとも、この市民ホールで共演したいですね。一緒に守山から未来へ、守山から世界へ音楽の魅力を発信していきたいですね。



ドリーム対談を詳しく読みたい人はこちら